

第5回

女性の仕事？ 男性の仕事？

講師

葭内 ありさ

「男は仕事、女は家事・育児」という考え方について、あなたはどのように思いますか？きょうは、「性別役割分業意識」が一般化していった歴史や、家事労働にはどのような価値があるのか学びます。また、性別に関わらず“仕事と生活の調和”（ワーク・ライフ・バランス）はどうしたら実現できるのか、考えていきましょう。

◆◆◆ きょうのキーワード ◆◆◆

性別役割分業意識

「男は仕事、女は家事・育児」という「性別役割分業意識」は、高度経済成長を背景に、1960年代以降に強まった考え方です。しかし、1975年の国際婦人年から始まった取り組みにより、男女が共に仕事と家庭の分野で責任を担うことが重要とされるようになりました。1985年には、国連の「女子差別撤廃条約」を日本も批准し、1986年には「男女雇用機会均等法」が施行されました。さらに、1999年に制定された「男女共同参画社会基本法」では、男女が仕事や学習、地域活動を行えるよう、家事・育児・介護などの家庭的責任を、男女が協力して分担することが必要であるとしています。

いまでは「父親が働き、母親は専業主婦」という性別役割分業に基づく暮らし方は多数ではなくなり、夫婦共働き世帯の方が多いため、女性は男性よりも非正規雇用が多く、女性の政治参加や職場の管理職への登用が諸外国と比較して進んでいないため、課題となっています。

ペイドワークとアンペイドワーク

職業労働は、仕事の時間や内容に応じて報酬が支払われる「ペイドワーク（有償労働）」であり、労働によって得た収入で、必要な物やサービスを購入して生活ができます。一方、家事労働は、自分や家族のために行われる「アンペイドワーク（無償労働）」で、人が生活する上で必要不可欠な労働です。家事労働は、種類が多く、繰り返し行われ、家族の状況に合わせて様々な工夫ができるなど創造性があり、労働によって生み出される価値が直接、自分や家族のものとなり、満足や喜びをもたらします。また、家庭総合第3回で取り上げたように、ライフスタイルの変化などによる家事労働の社会化（外部化）も進んでいます。

ワーク・ライフ・バランス

ワーク・ライフ・バランスとは、「**仕事と生活の調和**」を意味します。性別役割分業意識を取り除き、「みんなが仕事も家庭も」という意識を持つことは、みんなが性別に関係なく自分らしく生きることにつながります。また、国や地方自治体は、仕事と子育て・介護の両立を支援する政策を整備することが必要です。企業も、育児休業制度や介護休業制度などをはじめとする、仕事と生活の両立を支援する制度を導入するとともに、制度を利用しやすい職場の環境作り、長時間労働の見直しなどに取り組む必要があります。

1 性別役割分業意識とは？

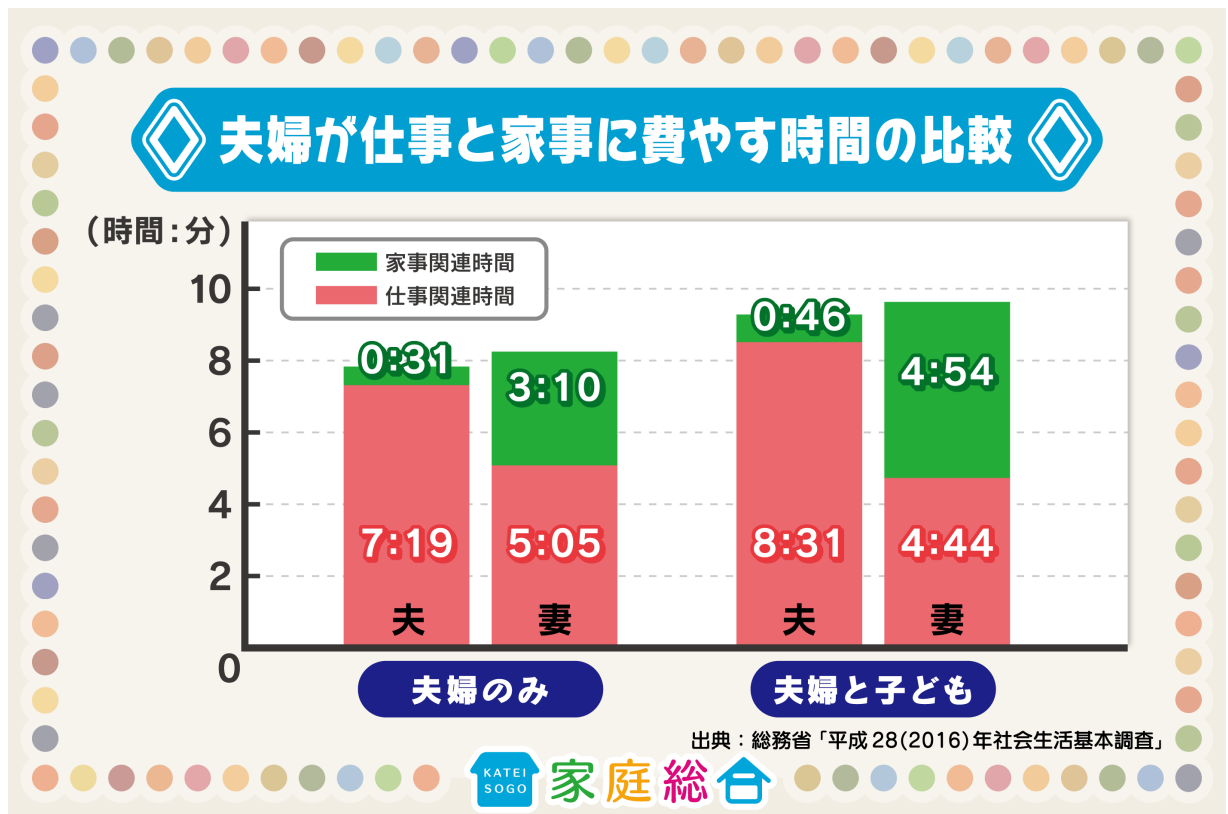
日本で「性別役割分業意識」が広まった歴史や、番組後半で紹介しているアイスランドの女性たちによるストライキをきっかけとした社会の改革などの例をみて、「性別役割分業」について、あなたが感じたことをまとめましょう。

2 ペイドワークとアンペイドワーク

「アンペイドワーク」について、高校生の意見や保育士の事例をみて、あなたはどのように考えたか、書きましょう。

3 仕事も家庭も

男女平等の意識が高いアイスランドの取り組みや、ポイント1で紹介した育児休業を取得した夫婦の事例も参考に、ワーク・ライフ・バランスを実現するために必要だと思うことをまとめましょう。



memo

きょうのまとめ

あなたがこれからの生活で意識していきたいことをまとめましょう。
日本の高校生の生活の中での平均的な家事時間は、平均10分足らずと、各国の同年齢と比較しても大変短いという調査結果が出ています。
きょうの学習全体を参考に、家族やいまの自分の生活のバランスについても、改善できる点はないか考えてみましょう。

Blank lined area for summarizing the day's learning.

memo

Blank lined area for a memo.